

部品 用品 整備

最新動向

テクノレーダー

09

市販スポーツマフラー

電子制御装置を併用し環境対応を図る最新トレンドをチェック！



出力特性と排気音量を自在にコントロールできる最新スポーツマフラー。室内に設けたコントローラーで好みのモードを設定すると、サイレンサー前部に取付けられた「ステッピングモーター」とバルブユニットが排気の流れをリアルタイム制御する。

排気管に取付けた「圧力センサー」が排気圧を検知し、低回転・低ブースト時はバルブを全閉し、排気をバイパスパイプへ流してサイレンサーがしっかりと消音してから放出する。

反対に高回転時はバルブが全開状態となり、排気はサイレン



水や熱、ホコリといった厳しい使用条件下では故障が生じやすくなるものだ。そうした際、整備工場の技術が期待されるのはいうまでもない。

サーから排気口へストレートで流れ、スポーツマフラー特有の出力性能の向上と「乾いた」排気サウンドを楽しめる。

なお、コントローラーで任意にバルブ開度を設定することも可能なので、TPOに応じて排気騒音を抑えることも簡単にできる。

スポーツパーツも環境対応が必須課題

チューニングやドレスアップといったカスタム志向の高いエンドユーザーから最も注目されるスポーツパーツといえば、やはり「スポーツマフラー」をおいて他になかろう。

そもそもスポーツマフラーとは、馬力の向上やエンジン回転のレスポンスアップといった性能面の向上が手軽に図れるとして、チューニング志向のユーザーから高い注目を集めていた。また同時に純正とは異なる「乾いた」排気サウンドも大きな魅力となっていた。

ただ最近では、周知のとおりドレスアップの一環として購入するエンドユーザーも増加し、その中には「排気音が大きくなっては困る」というタイプも少なくないという。つまり、TPOに応じて排気騒音をコントロールできるような仕組みに対しての要望が高まってきたというのだ。

市場が拡大してくれば、ユーザーニーズが多様化するのとは当然の流れだ。とりわけ「商品開発に

おいても（排気騒音が及ぼす）環境への配慮が重要な比重を占めてきた」と業界関係者は語る。

スポーツマフラーの老舗メーカーとして知られる藤壺技研工業では、電子制御装置を組み合わせた排気コントロールによって、このようなニーズに対応する商品ラインナップを7月より開始した（詳細は上記参照）。

メンテナンスで整備工場が柔軟に対応

この商品には取付けに関する詳細なマニュアルが添付されていて、チューニングショップやカー用品店などでも装着ができるそうだ。

ただし電子装置である以上、常に水や熱、ホコリといった厳しい使用環境にあれば故障が生じやすくなることは十分に考えられる。そうした際、エンドユーザーが技術的な面で整備工場に寄せる期待は大きくなるだろう。

このようなケースを想定し、エンドユーザーの期待に応えるためにも、日頃から関連情報の収集だけでもしておきたいものだ。